

面接の形式

面接の形式は大きく分けて次の3つがあります。

個人面接

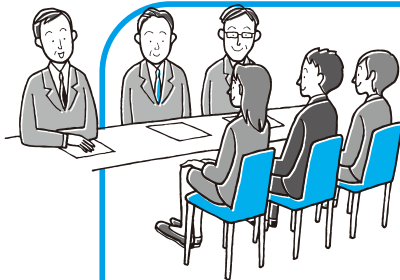
受験者1人に対して、1人または複数の面接官により行われます。複数の面接官の場合は、質問する面接官と応答する内容を評価する面接官と役割が分かれますので、面接中の態度にも気を抜かないようにする必要があります。



Point 自分のペースで話すことができるので、自分を売り込むチャンスです。面接官は、話のキャッチボールはできているか、自分のことをしっかり理解・認識し、それが表現できているかをチェックしています。

よくある質問

- 学生時代に一番力を入れてきたこと
- 今までで一番感動したエピソード
- これまでの挫折体験
- なぜこの業界、当社を志望しているのか
- 当社に入社して挑戦したい仕事や目標など



集団面接

受験者も面接官も複数となりますので、ほかの受験者の応答内容にあまり気をとられることなく、自分のペースを守る必要があります。面接官は、あなたが落ち着いて場の空気をつかんだ返答をしているか、ほかの人の意見をしっかりと聞いているかをチェックしています。また、虚勢を張るのではなく、いつもの自分らしさを失わないようにしましょう。

Point 自分の持ち時間は短いので質問には簡潔、的確かつ具体的に答えると好印象です。

グループ討議

社会問題や時事問題などをテーマに6～10人くらいのグループで討論する形式で、発言内容はもちろん、集団の中での協議性、指導力などが判断されることとなります。また、あるテーマに対し、意見の対立する2グループに分かれて討論するのがディベートです。いずれも話の流れをしっかりと理解しながら、具体的な意見を自分の言葉で積極的に発言することが大切です。



Point 早い段階で自分の役割をつかみ、意識的に表現することが大切です。目立とうと思ってほかの人の意見を否定したり、やり込めるような態度をとらないことが大切です。議論に勝つことが目的ではなく、他人といかに円滑なコミュニケーションがとれるかが大切です。客観的にほかの人の意見を聴き、議論の展開を分析できているかをチェックされています。

ディスカッションテーマ例

- 「人にものを教える」ときに必要な要素を3つ挙げなさい(証券/学生5人/30分間)
- 無人島に一つだけを持っていくとしたら?(商社/6人/30分間)
- 今後の携帯電話はどうなっていくか(旅行/5人/15分間)
- 経営者にとって必要な資質とは?(コンサル/8人/60分間)
- 国政選挙の投票率を上げるためには?(情報処理/6人/45分間)など